

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態 (講義・演習・実験等) の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導 (院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導 (専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価 (評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究計画書、シラバス、適切な科目履修を通じた教育研究体制の整備・運用を行う	→研究科所属教員による、FDのための意見交換会の実施回数	A	A			
2. 授業科目ごとにシラバスを作成し、授業がシラバスに沿って、進められているかどうかを学生にアンケートする	→学生アンケートの実施回数	A	B			
3. 成績付与の現状を情報として教員間で共有し、成績評価については、学生からの疑義申し立ての制度を整備運用する	→疑義申し立て制度の整備と各学期ごとの定期的な実施	A	A			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明)学生には「研究準備計画書」「研究中間報告書」を提出させ、博士論文作成に向けて研究計画をしっかりとたてさせ、それにしたがって研究を進展するよう、きめ細かく指導している。また、これらの計画書だけではなく、各種試験等のチェックポイントを設けたり、博士論文に着実につながるように学会誌などへの投稿、学会での発表などを義務づけている。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明)博士課程では、学生の博士論文研究が主となるため、すべての学生向けに事前に細かいシラバスを設定するのは必ずしも適切ではない。研究の進展状況に応じて、教員と学生が意思疎通を図って、各学生についてのシラバスのものを作成するようにしている。
★小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明)成績評価は、各科目における学生の研究報告や提出レポート、学術誌への投稿、学会への参加実績などに基づいて適切に行われている。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) <b>いずれかにチェックしてください。</b> →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明)半年ごとに研究指導や授業科目に対するアンケート調査を行っている。また、博士課程学生とは頻繁なコミュニケーションが必要なため、教室、研究室だけでなく、メールなどを通じて、これを実現している。さらに、博士課程教育をどのように行っているか、研究科委員会で各教員が報告し、改善について意見を交換している。
その他	

《評価指標データ》

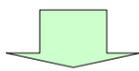
- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次 Semester ごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	2009年度に博士課程のFD委員会を開き、博士課程での各教員の教育・研究指導内容を報告した。これにより、博士課程での教育・研究指導方法について、教員間で意見を交換できた。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	成績評価につき、学生からの異議申し立てはない。適切な成績評価の傍証となろう。
小項目6.3.4	博士号請求論文提出者(2名)に対して、公開発表会を実施し、3年間における本課程における教育の成果が明瞭となったと考えている。
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸ばさせるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

&lt;評価専門委員会の評価&gt;

【学外委員】

○小項目6.3.2のシラバス作成について。前項6.2.1とも関連しますが、関西学院大学経営戦略研究科の学位を授与された人が、どのような知識・能力・教養等を共通の基盤に有しているべきなのか、それを検討することで、共通して履修すべき分野や科目が見えてくるのではないのでしょうか。後期課程で社会人が多い場合、時間的にもなかなか困難なこともあるかと思われそうですが、研究科としてのアイデンティティに立ち返って検討することが期待されます。

【学内委員】

○進捗評価において、「A」から「B」にランクダウンしている事項がありますが、目標を達成した事項が翌年度「目標は達成していない」というのは論理的にあり得るのでしょうか。特に学生数の少ない後期課程において、アンケートの実施回数を指標とする評価が退化するとは、どういう意味なのでしょう。もう少し具体的な記述が望まれます。

○目標の進捗評価の2つが「A」です。具体的でない目標であったり、短年度の目標であるように思います。中期的であり具体的な新たな目標を設定することをお考えください。

○目標2の進捗評価が「A」から「B」になっています。ご説明をお願いします。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&amp;6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- これまで3名の学位授与者がでており、彼らの足跡、経験を分析することにより当研究科の強み、課題を明らかにしていく。
- ☆ アンケートの実施回数を指標としており、業務の手続き上回数が減少した。今後は通常の頻度に復帰できる見通しである。